

活動拠点「みなものち」を中心としたコミュニティ活性化と
ICT活用による便利なまちづくり
地域まちづくり計画



令和7年9月
皆野町

まちづくりにおける課題

人口減少は地域活動の担い手減少に直結し、地域の賑わい低下と地域コミュニティの希薄化、地域における災害時の対応力低下を招くため、対策が急務である。

また、町の山間部では谷に県道が通り、そこから分岐した先の山間部に小さな集落が点在しているケースが多く、特に高齢者の買い物や通院、介護サービスの利用などの面を中心に、生活維持についても課題が多い。

まちづくりの方向性

皆野駅前で、かつ商店街の中心に位置する移住相談センターをコミュニティスペース「みなのんち」としてリニューアルし、地域おこし協力隊の活動と連動しながら活用を進めていく。

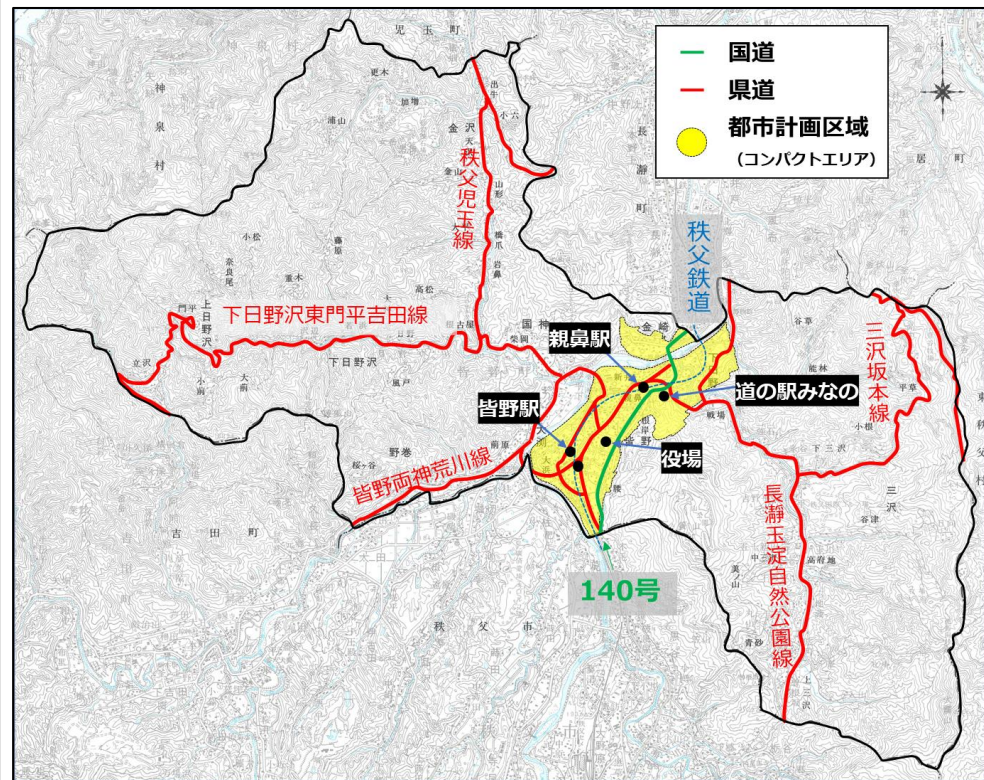
地域の賑わい創出やデジタル技術を活用した住民の利便性向上などを産学官の連携により推進するとともに、持続可能なまちづくりへの住民参加を促進し、住民の幸福度向上を目指す。また、「みなのもち」への蓄電池配備により、災害時の一時的な電源確保を図る。

併せて、空き店舗活用など、商店街等の活性化を図る。

対象地域及び区域

皆野町全域を対象範囲とする。

地图



重点的に整備する区域等

- ①都市計画区域に指定されている区域
②①以外で国道及び県道沿いの建物

他の計画における位置付け

- ・第5次皆野町総合振興計画
- ・第2期皆野町まち・ひと・しごと創生総合戦略
- ・皆野町過疎地域持続的発展計画

地域の現況

人口・世帯の状況

人口減少が進んでいる。令和7年4月1日時点の住民基本台帳人口は8,796人である。平成29年11月に10,000人を下回り、さらに令和6年7月には9,000人を下回った。

令和7年4月1日時点の高齢化率は40.4%となっている。令和2年3月策定の人口ビジョンでは令和12年で高齢化率40.6%と推計していたが、それよりも早いペースで進んでいる。

また、令和2年度からの10年間で小学生が約200人減少していくと推計しており、現在、急激な少子化の真っ只中にある。

地区別に見ると、人口の約58%が町の中心部である大字皆野地区に居住している一方で、約20%は山間部である金沢、日野沢、三沢地区に居住している。

世帯数は、令和7年4月1日時点で全3,953世帯である。平成末期までは増加傾向だったものの、令和に入ってから減少傾向となり、特に令和5年以降は急激に減少している。

開発の状況

本町の面積63.74平方キロメートルのうち、平坦地は約25%であり、他はすべて林野となっている。町の中央を南北に流れる荒川を中心とした河岸段丘の地形で、まとまった平らな土地が少ない。そのため大規模な工場や住宅地の造成には適さないことから、大きな開発は行われていない。

中心市街地は皆野駅周辺の本町商店街を軸に形成されてきたが、現在は空き店舗が多い。なお、店舗併用住宅が多いため、空き店舗の活用も進みにくい状況である。

地域交通の状況

町の中心部に秩父鉄道が走り、町内には皆野駅、親鼻駅の2駅が位置している。また、国道140号の本線のほか、皆野寄居有料道路、皆野秩父バイパスが通じ、秩父地域の交通の要衝となっている。

町内の移動は自動車主流だが、町営バス2路線、民間事業者による路線バスが1路線運行されている。

また、自動車運転免許を持たない高齢者向けにタクシー代の補助を行う高齢者お出かけタクシー制度を実施しており、公共交通空白地帯の移動ニーズをカバーしている。

なお、令和6年度末に地域公共交通計画を策定し、時代の変化に合わせて交通政策の転換を図るべく準備を進めている。

地域資源

関東三大民謡にも数えられる「秩父音頭」の発祥の地である。毎年8月14日には役場前のおまつり広場を主な会場として「秩父音頭まつり」が開催され、町内外から1万人を超える来場者が集まる。

また関連して、俳人・金子伊昔紅やその子である金子兜太を中心として古くから俳句文化が根付いた町でもある。かつて秩父地域と東京、群馬方面との交易の要衝だったため、文化や交流の中心地としての役割も担ってきた町である。

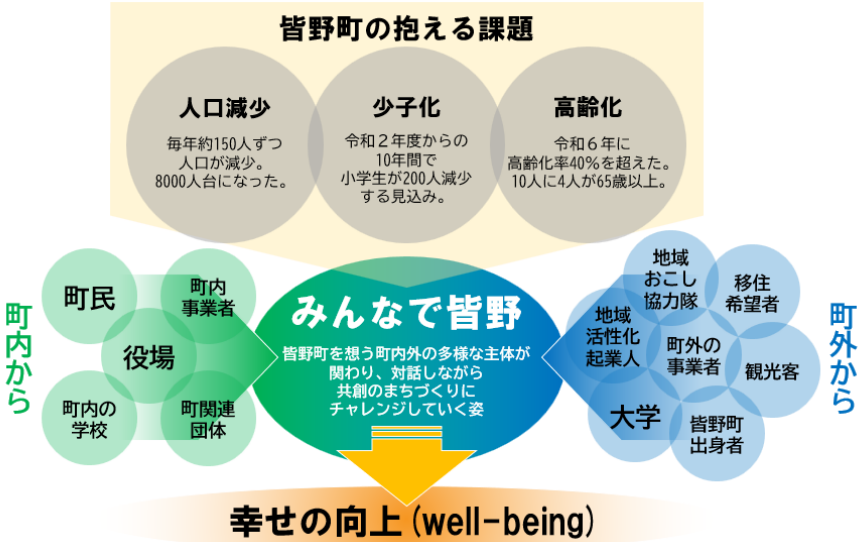
加えて、自然に囲まれた環境から、美の山の桜やアジサイ、秩父高原牧場のポピーといった花の名所や、荒川の河原を中心としたレジャー、前原の不整合や紅簾石片岩などの地質学的価値が高い名勝・天然記念物も重要な地域資源である。

まちづくりのコンセプトと事業全体の概要

まちづくりのコンセプト

人口減少・少子高齢化により、いわゆる「地域活動の担い手」の減少が懸念される。また、家族の形態や生活様式、就業スタイルも変化し、住民ニーズが多様化している。

こうした課題について、行政のみではなく、町民や地元事業者、地域おこし協力隊、地域活性化起業人など、町内外の多様なセクターが得意分野を活かし、それぞれが自分事としてまちづくりに参画することを目指す。



推進体制

町企画財政課が中心となり、庁内関係各課と連携を図りながら事業を進めていく。また、みんなのんちを活動の場とする地域おこし協力隊や地域活性化起業人、連携協定を締結している大学とも協同で進める。

また、県関係課とも随時連携を取りながら進める。

事業全体の概要

【コンパクト】

中心市街地の賑わい創出と住民参加による「住んでみたい、住み続けたい」まちづくり

- 「みんなのんち」をコミュニティスペースとして機能強化し、地域の活動拠点として活用
- 産学官の連携による住民等のまちづくりへの参加促進と地域コミュニティの活性化
- 空き店舗の利活用による地域活性化

【スマート】

町民ニーズや地域の実情に沿ったデジタル社会の実現

- デジタル技術を活用したコミュニティスペースの利用促進（スマートロックの導入、web掲示板の導入による活動の広報強化）
- 地域おこし協力隊によるデジタルデバйд対策講座や地域DXの取組強化
- 官民連携によるICTを活用した健康増進
- 行政手続きの電子化による利便性向上

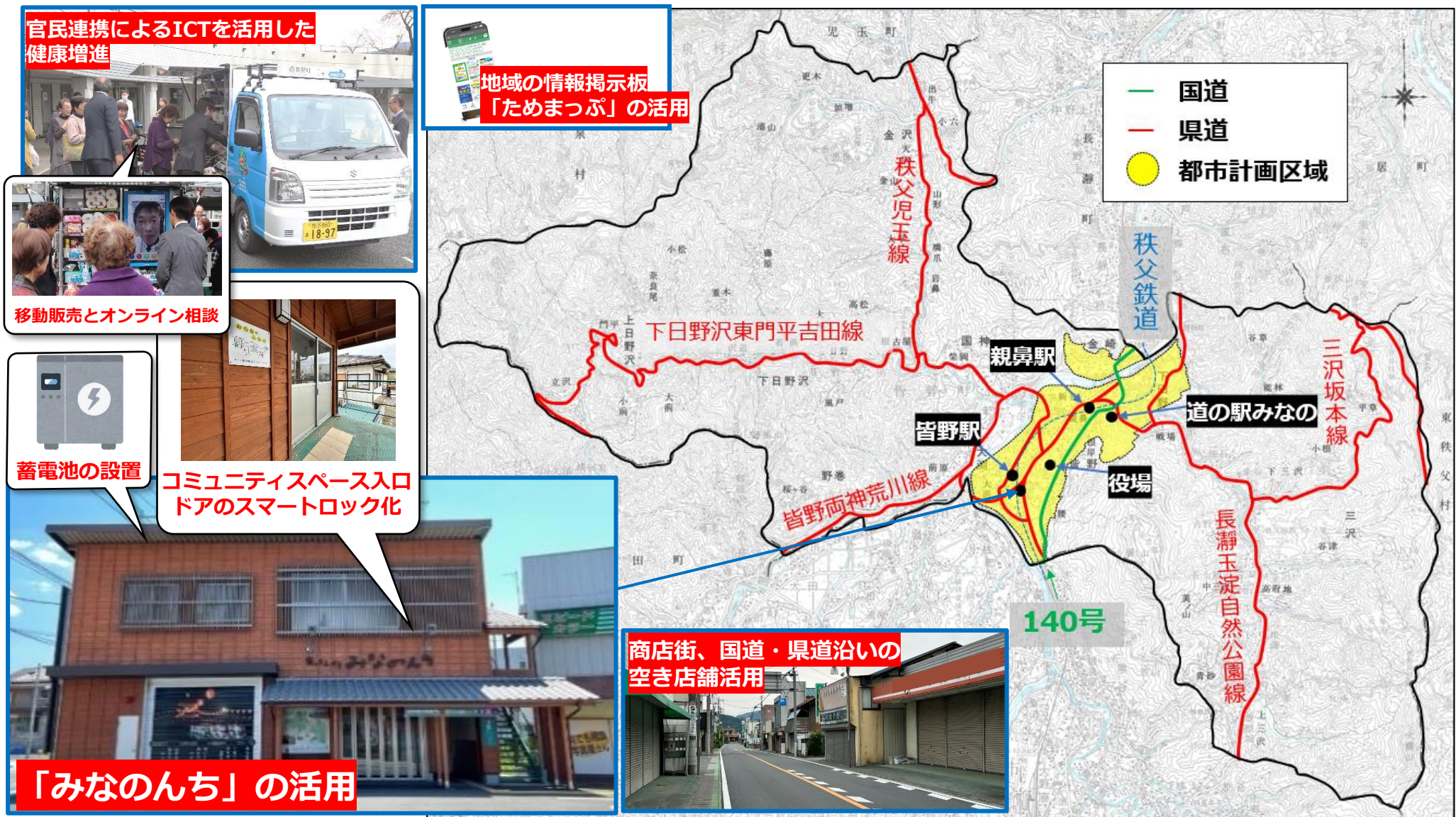
【レジリエント】

災害時でも途切れない電源の確保と地域コミュニティの強化によるレジリエンス向上

- 災害時に安心を提供できる拠点としてのコミュニティスペースの活用（蓄電機器の設置による非常用電源の確保）
- 交流機会の提供による地域コミュニティの強化

計画図

- 皆野駅前に位置する「みなのんち」を軸として地域の賑わい創出やデジタル技術を活用した住民の利便性向上などを産学官の連携により推進するとともに、持続可能なまちづくりへの住民参加を促進し、住民の幸福度向上を目指す。また、みなのんちへの蓄電池配備により、災害時の一時的な電源確保を図る。



【コンパクト】事業一覧

[illegible]

【レジリエント】事業一覧

[illegible]

KPI

コンセプト	指標	基準値(調査時点)	目標値(達成年度)	備考
全体共通	「みなのんち」利用者数	年間456人 (令和6年度)	年間800人 (令和12年度)	
コンパクト	空き家・空き店舗を活用した創業支援の件数	年間3件 (令和6年度)	年間3件 (毎年度)	
スマート	地域の情報掲示板「ためまっぷ」への情報掲載件数	0件 (令和6年度)	累計500件 (令和12年度)	
レジリエント	蓄電池の配備	0台 (令和6年度)	2台 (令和12年度)	